

# ふる里に誇りをもつ子供達を育てる 「八女ふる里学」・「八女茶学」

地域の  
特色ある  
活動

## 福岡県八女市教育委員会

### 1 はじめに

福岡県八女市は、平成22年2月1日に1市2町2村が「平成の大合併」をしました。面積は483平方キロメートルと福岡県で2番目に大きな市となり、人口は現在約6万6千人です。

本市は全国的ブランドである八女茶をはじめとして、さまざまな農産物の宝庫です。なかでも「八女伝統本玉露」は、平成27年、「地理的表示保護制度」に登録され全国的に高い評価をいただいています。

また、太古から続く歴史は、九州を代表する豪族筑紫君「磐井」の岩戸山古墳などの史跡や多様な文化財を有し、時の経過とともに磨き抜かれた仏壇・提灯・石灯ろう・手すき和紙等の伝統工芸の技は、今日にも確実に引き継がれています。

さらには、人口7万人弱の小さな市ですが、坂本繁二郎画伯をはじめとした3人の文化勲章受章者と五木寛之先生をはじめとした3人の直木賞作家を輩出しています。



このように多様な地域の魅力（八女市の「よさ・素晴らしさ」）は、私たち市民の宝であり、誇りでもあります。

### 2 本市教育の重点事項

八女市は、平成16年3月に「八女市教育の日を定める条例」を制定し、その中で、「八女市を愛し、ふる里に誇りを持つ子ども達を育む」と謳っています。

重点的取組として、短期的には、「確かな学力のつく学校」づくりと「秩序のある学校」づくりをとおして「地域に信頼される学校」づくりに努めているところです。

長期的には、「八女市を愛し、ふる里に誇りを持つ子供達を育む」ことに努めています。そのためには、将来の八女市を担う大切な子供達に、授業の中で、八女市の「よさ・素晴らしさ」をきちんと伝えていくことが大切だと考えています。

### 3 「八女ふる里学」と「八女茶学」

#### (1) 「八女ふる里学」(小学校)

八女市教育委員会では、市内の先生方の協力を得て、2年間かけ「八女ふる里学」(193ページ、オール・カラー版)のテキストを作成しました。このテキストは各学校3年生以上の学級に40冊を常備しています。

また教育課程に3年生以上、年間8時間程度を位置づけ、授業で活用して3年目となります。学習内容によっては、スクールバス(毎日27台運行)を活用して、施設などの見学も実施しています。

その成果は、11月5日の「八女市教育の日」のイベントで、「八女ふる里学」と題して2校が発表しています。

一方、教えていただく教職員を対象に、八女市教育研究所の夏の講座で「八女ふる里学」を開講し、視察研修を実施しています。

### 「八女ふる里学」学習内容

3・4年生編	ふるさと八女をみつめよう
	1 わたしたちの市の様子
	2 ふるさと八女の農業
	3 八女の農業をささえる
	4 八女の伝統工業
	5 八女の祭り
6 ふるさと八女の地域おこし	
5年生編	ふるさと八女をみつめよう
	1 八女の林業とそれを支える人々
	2 八女市にあるたくさんの句碑・文学碑
	3 石橋と棚田
	4 八女の教育
5 八女の芸術・文化	
6年生編	ふるさと八女の歴史をさぐる
	1 古代の八女
	2 南北朝時代の八女
	3 江戸時代から近代までの八女
	4 第二次世界大戦と八女
これからの八女づくり	
未来の八女市をえがいてみよう	



### (2) 「八女茶学」(中学校1年生)

「八女茶学」では、八女市教育委員会が作成した「八女茶学」(30ページ、オール・カラー版)をもとに、お茶のインストラクターを学校に招き、1時間目は八女茶について学

習します。次の1時間は急須を使った美味しいお茶の入れ方を体験します。授業の終わりには、子供達にお土産を渡し、「これでお父さん、お母さんに美味しいお茶を入れてあげてください。」と頼みます。その夜、生徒は「おいしかったよ。有難う。」の言葉をもらいます。この取組を7年間実施しているところです。

また、八女市の子供達全員に、学校でも美味しい八女茶を飲んでもらいたいと考え、平成27年度から本年度までに、小学校14校、中学校9校、義務教育学校1校の全ての学校に「給茶機」を設置しました。この給茶機は1回1回茶葉が変わり、ホットでもコールドでも飲める優れもので、子供達や教職員に好評です。

### 4 おわりに

1市2町2村が合併して7年が経過しましたが、八女市の様々な「よさ・素晴らしさ」を知らない市民が多いことに気づきます。したがって、小学生や中学生が学習し、知ってもらうことが極めて大切だと思います。10年、20年と続けていけば八女市の様々な「よさ・素晴らしさ」を知った市民が増えていきます。時間はかかりますが、八女市にとりましても大変大切なことです。つまり、「八女市に住み続けたい」という定住促進や、「自分の大切な家族を時々大好きなふる里に連れて帰りたい」という交流人口の増加や、「大好きな八女市の役に立ちたい」という、ふるさと納税の増加などにつながっていくと確信しているところです。

教育長

西島民生

